

令和7年度 第3回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和8年2月17日（火）午前10時～午前11時15分
場 所	羽島市役所 第1委員会室
出席者	<p>（社会教育委員）出席者8人</p> <p>岩田 睦巳 委員(小中学校長会代表)</p> <p>小森 博昭 委員(スポーツ推進会議代表)</p> <p>服部 憲雄 委員(子ども会育成協議会代表)</p> <p>堀 登司仁 委員(文化協会代表)</p> <p>水谷 千枝 委員(レクリエーション協会代表)</p> <p>渡邊 修 委員(コミュニティセンター館長会代表)</p> <p>高砂 房子 委員(学校法人高砂学園代表)</p> <p>二村 玲衣 委員(学識経験者)</p> <p>（事務局）</p> <p>伊藤 佳津子（市民協働部長） 丸山 靖生（生涯学習課長）</p> <p>柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長）</p> <p>牛田 紗耶香（生涯学習課係長） 林 朋恵（同課主事）</p>
内 容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・会議開催成立の報告 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>令和7年度の取り組みについて 資料に基づき、事務局より令和7年度の取り組みを説明。</p> <p>（委員） 資料1の2ページ（3）情報の提供で、「学びEyeはしま」の発行を約1か月早めた結果、例年より状況は良かったか。</p> <p>（事務局） 参加者や市民の関心については、答えが出ているわけではないが、コミュニティセンターからは好評で、ありがたいという意見があった。ただ一方で課題もあり、時期が早い分、その時点で日程が決まっていないものについては詳しく情報提供ができず、後半は内容が少し薄かった。</p>

(委員)

実際に掲載された情報の量は増えたか。

(事務局)

令和6年度の掲載数は143件、令和7年度の掲載数は152件であり、9件増えている。

(委員)

作文コンクールや市美展など、たくさん子どもたちが活躍する場をいただき改めて感謝申し上げます。特に、資料1の3ページ(2)文化の振興・普及で、今年はイタセンパラの環境学習講座の形を変えて、学校に直接アウトリーチする形で行っていただけたことは、子どもたちが興味をさらに広げていくという点で大変ありがたかったと思う。

資料1の2ページ(2)はしまシティカレッジについて、今年度はどんな内容の講師を選出されたのかを教えてください。

(事務局)

今年度認定講師として選出した3名は、折り紙の普及活動をしている方、リズムを使った健康体操をしている方、集団で一緒に体を動かす活動をしている方である。

(委員)

ぜひ講師の方を学校にお呼びして、今までの活動を展開していただくことをお願いしたい。もし余分なチラシがあれば、学校にいただけると、学校内でも紹介ができると思う。

(委員)

ご報告いただいたことについて、全体的には非常に充実した活動をされていると感じる。

青少年健全育成について、青少年育成推進員がコミュニティセンター事業の手伝いに留まっている現状がある。推進員に活動内容を具体的に伝え、コミュニティセンターと地域が連携して取り組むべきことを話し合える関係性を築いていく必要があると感じる。

ご報告の中に、各務原市の推進員と交流会をしたとあるが、具体的にどのようなお話が出たのか教えてください。

(事務局)

各務原市では、元校長などが学校と地域の子どもたちを繋ぐ役割を担っており、組織が確立された中で事業が展開されている。

青少年育成推進員が他市町村の事例や地域づくりの実践について学ぶ研修を通じ、それぞれの地域で主体的な活動ができるよう意欲を高めていきたい。

(委員)

各務原市の推進員と交流されたのは、各務原市の青少年育成推進の活動に特徴があったからなのか、それとも他市町村と順に交流しているのか。

(事務局)

青少年育成推進員の管外研修については毎年どこかの市町に直接訪問して、学びを深めている。県内の活動報告などを参考に、先進的な取り組みや参考となる活動を行っている市町の中から、推進員と協議し決定している。

(委員)

様々なスポーツイベントを行っていただいている。やはりスポーツについては継続的に行うことが重要だと思う。羽島市は継続的にスポーツができる場所が少ないことが弱点である。いつでも、誰でも気軽に行って、スポーツが継続的にできる場所が必要だと思う。

看護大学の体育館とテニスコートの利用状況を教えていただきたい。

(事務局)

看護大学の屋内運動場の利用状況について、使用促進補助金申請件数で報告すると令和7年度は14件、令和6年度は15件、令和5年度は13件である。現在8団体の利用があり、種目についてはバレーボール、卓球、バスケットボール、体操、バトミントンなどがある。テニスコートについては、現在施設の状態があまり良くないため、一時的に利用を中止されている。

現在は、土日のみお借りしているが、大学のご配慮もあり、来年度からは平日の夜間もお借りできるよう、調整を進めている。

(委員)

小・中学校の体育館の利用に比べて看護大学の利用件数は少ない

と感じる。なぜ、利用が少ないのか検討してほしい。

(事務局)

看護大学の利用促進については、平日の夜間利用も可能となる見込みであるため、それを含めて市民の皆さんに周知をしていきたい。

(委員)

看護大学の利用について、できれば夏休みや冬休みなどの長期休みも利用できるよう依頼していただくと良いと思う。

利用時間の調整などをしているのは、看護大学か、それとも市スポーツ推進課か。

(事務局)

長期休みの利用については、現在調整を図っている。

利用の受付は市スポーツ推進課で行い、その後、市から看護大学へ申請を行うという手順である。

(委員)

11月16日に開催した体育振興会とスポーツクラブが共同したファミリースポーツ広場など、スポーツを通じた地域づくり活動は素晴らしい。FC岐阜などの市外スポーツ団体との連携は価値があり、子どもたちもスポーツ教室を楽しんでいたことから、今後も継続を希望する。

(事務局)

FC岐阜のスポーツ教室については各年度、各小学校を順番に回っていく予定である。その中でスポーツに関心のある子どもがいれば、ぜひスポーツ少年団にご加入いただき、活動をさらに進めていただきたい。

(委員)

電子書籍・電子図書館の運営について、費用がかかるものと聞いているが、それに見合った利用件数はあるか。

(事務局)

電子書籍・電子図書館の運営については、市内各小・中学生にタブレットが1人1台ずつ配布されている状況を加味して、令和5年

度より導入している。令和5年度は8万3千冊、令和6年度は6万2千冊の利用があった。導入当初は珍しさもあり、利用される方もいらっしやったが、維持していくのにはお金がかかるため、今後は、より利用者が興味を持つような書籍を確保することが課題である。

(委員)

子ども会の現状について、少子化の進行により、子どもの数が減少し、それに伴い各単位子ども会の人数も減少している。単位子ども会の人数減少は、役員（育成者）の負担増大を招き、結果として単位子ども会の休会や脱退が増加している。

活発な活動で知られる各務原市でも、今後、学校区単位での脱退が懸念されている。

羽島市の子ども会活動は、以前はソフトボール大会、ドッジボール大会、壁新聞展など、様々なイベントがあったが、役員の負担軽減のため、イベントの削減やスリム化が進められている。

保護者にとっては負担が大きいと感じる一方で、子どもたちは活動を楽しんでいる現状がある。子ども会は子どもたちの社会教育において重要な役割を担っており、その存続と活動維持が今後の課題である。

(委員)

レクリエーション関連のイベントについて、以前は子ども会からの参加が多かったが、最近は親子連れや友達同士の参加が増加している。学校からの広報も効果的であったと思われる。

(事務局)

4 その他

事務局より令和8年度岐阜県・岐阜地区の各種大会について周知

5 閉会

以上